

## 身近なものから見るインドネシア

日本のアイドルグループ「AKB48」の海外姉妹グループとして「JKT48」がデビューしたことは、多くの日本のマスコミでも取り上げられました。デビュー当初、インドネシアでの知名度は低かったのですが、本場日本のアイドルグループのインドネシア版として現地で受け入れられるまで、あまり時間はかかりませんでした。

今年 9 月には、「JKT48」専用の劇場がジャカルタのショッピングモールにオープンしました。チケット代は、平日 5 万ルピア（約 400 円）、週末 10 万ルピア（約 800 円）とインドネシアの物価に合った金額で、「AKB48」の曲をインドネシア語に直して歌っています。観客も「アー、ヨッシャイクゾー、タイガー、ファイヤー…」と声援を送ります。「ミックス」と呼ばれる日本の応援方式を、インターネットでチェックして練習しているようです。

「JKT48」は、インドネシアへ進出する日系企業さながらです。日本式のノウハウを現地に持ち込みながらも、インドネシアで受け入れられるように変化させています。メンバー（＝社員）は、インドネシア人（＝現地スタッフ）に加え、日本人（＝現地採用の日本人スタッフ）が 1 人、そこに 2 人の AKB48 から移籍したメンバー（＝日本人駐在員）という構成です。「日本人駐在員」は日本のノウハウを教える役割、「現地採用の日本人スタッフ」は現地スタッフとの間に立ちコーディネーターとしての役割を担っていると思われます。「JKT48」は今後、日本式のアイドルグループとして受け入れられることだけでなく、現地日系企業のイメージキャラクターとしてイベントや CM で活躍することも期待されています。

実はインドネシアでは「AKB48」よりも遙か昔から日本の様々な文化が浸透しています。1980 年代には「おしん」がブームになり、経済的に成功した憧れの国である日本でもこのような厳しい時代があったことが共感を呼びました。その後、日本のマンガが広まり、「ドラえもん」「ポケモン」「名探偵コナン」などのコミックやテレビアニメはインドネシア語に翻訳されています。SNS などを使って日本の文化の情報交換をする人たちは「プチンタ・ジュパン（日本愛好家）」などと呼ばれています。

こうして日本だけでなく欧米などの文化を吸収してきたインドネシアの文化もどんどん発展してきています。今後はインドネシア、そしてアジア発の文化が日本に入って来て、お互いに影響を受け合う時代になってくるのかもしれません。

インドネシアの伝統武術ブンチャック・シラットを取り入れたアクション映画「ザ・レイド」が 10 月 27 日(土)に日本で公開されました。ジャカルタのスラム街にそびえ立つ、麻薬王が支配する 30 階建ての高層ビルに強制捜査に入った 20 人の SWAT と、それを迎え撃つギャングとの闘いを描いた作品です。インドネシア人のキャストを使い、インドネシアで製作された映画が、日本全国の映画館で公開されたのは初めてです。映画のクオリティーも高く、ハリウッドでリメイク版の製作も決定しました。インドネシア映画界の歴史はまだ浅いですが、そんな中でインドネシアらしさを取り入れた映画が世界各国で受け入れ始めたことは非常に面白いことです。

また、インドネシアの映画を見れば、スクリーンを通してインドネシアの文化、宗教、生活などについても垣間見ることができます。

「ビューティフルデイズ (Ada apa dengan cinta)」はスハルト政権が崩壊して 4 年後の 2002 年に上映されました。スハルト政権時代は報道の自由が規制されていましたが、生活も文化も自由になった雰囲気映画全体に表れています。首都ジャカルタに住む若者のラブストーリーで、バンドによるライブがあったり、アメリカ留学があったりと、都市に住む今どきの若者を描写しています。また、イスラム教徒でタブーとされているキスシーンもあり、人口の 9 割以上がイスラム教徒のインドネシアで、当時

は革新的な映画として若い世代に受け入れられました。

イスラム教の教えや考え方について知ることができるのは、「愛の章句 (Ayat Ayat Cinta)」という映画です。主人公ファリはイスラム教徒で、カイロに留学していました。彼と知り合ったキリスト教の女性マリアは、彼に好意を抱きますが、お見合いを勧められたファリは同じイスラム教徒のアイシャと結婚をします。本来、異教徒間の結婚は許されませんが、失意の底に落ちたマリアに同情したアイシャは、マリアと自分の夫ファリが結婚することを許します。イスラム教の教えでは、第一夫人が許せば、第二婦人を持つことができるのです。日本とはまったく異なる慣例と考え方が、イスラム教徒が多くを占めるインドネシアには存在します。

アイドルや映画など、実は私たちの身近なところにインドネシアは存在しています。まずは身近なところから、楽しんでインドネシアを学んでみては如何でしょうか？

以上

<これまでの岡山県インドネシアビジネスサポートデスクレポートは[こちら](#)から>

**★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★**

所在地：WISMA NUSANTARA BUILDING 24<sup>th</sup> Floor

Jl. M. H Thamrin Kav 59 Jakarta Pusat Indonesia 10350

デスク担当者：PT.JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託）。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。岡山県産業企画課マーケティング推進室（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。